

保育園自己評価表

2019年度

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある優しい子 ・自分で決めて自分でおこなえる子 ・遊びの中から様々なことを学ぶ ・「食」に関し興味を持ち、感謝の気持ちを育む ・異年齢交流より、相手に対する慈しみの気持ちや憧れの気持ちを持つ <p>【達成度】</p> <p>どの年齢においても、子どもの主体性を大切にしたり関わり方を心がけていった。自分で遊びを選択したり、生活の中で自分で選ぶ場面を増やしたりすることで、意欲的に生活し、多くの学びや育ちにつなげていき、一人ひとりの育つ姿を園全体で温かく見守ることができた。</p> <p>各年齢で野菜を育て、収穫や調理を楽しみ、食の関心興味をもって過ごすことができた。</p> <p>乳児フロア、幼児フロアそれぞれの中では異年齢交流活動と年齢別活動をバランスよく取り入れ、子ども同士の育ち合う力、年下児を思いやり、年上児に憧れを持つ姿が見られた。園全体で見ると、乳児と幼児での関わりが少なく課題を残した。発達段階や安全面に考慮しながら、交流していけるように次年度につなげていく。</p>	<p>乳児クラスでは、一人ひとりの園児に丁寧に接し、それぞれの成長や発達、性格等に合わせた援助を職員間で考えながら行うことができた。何より、安心して過ごせる環境作りや、自分でやりたいという気持ちを育み、自分ですることの楽しさを積み重ねていくことで、自信に繋げていけるように共通理解を図り、また、子どもたちの伝えたい気持ちを感じ、待ち、つぶやきやしぐさに共感しながら発語や表現する喜びを育てていけるように、職員間で共有し連携して保育に臨んでいった。</p> <p>幼児クラスでは、フロア内での役割や仕事を明確にし、声を掛け合いながら円滑に保育が進むように心掛けていった。週に一度、担任間で週案を話し合う場を設けたことで、互いのクラスの理解を深めることができた。戸外活動と一緒に掛けたり縦割りで活動するなど、互いのクラスの状況をよく知り保育のフォローや行事の連携をしつかり図ることができた。</p> <p>園全体としては、乳児クラスと幼児クラスとの職員間の連携や関わりが少なかった。限られた保育環境の中で、乳児と幼児の生活のリズムを大切にしながら、園全体での交流を増やして、乳児への優しい関わり方や思いやりの気持ちや、幼児を真似て試行錯誤挑戦する力を育んでいけるようにしていきたい。</p>	<p>日常的に行っている園周辺の散歩や近隣の公園遊びでは、地域のこともっと知り、それを園として共有できるようにという意識のもと日々の保育を行った。</p> <p>保育フェスでは、保護者以外の地域の方にも、歌やダンスを楽しく披露することができ、良い経験となった。</p> <p>ハロウィン訪問では、地域の高齢者の方との交流を楽しんだり、近隣の保育園と連携して商店街のハロウィンイベントに参加したりなど、地域の方との交流の機会を取り入れていくことができた。</p> <p>幼保小連携の取り組みとして、近隣の保育園、子ども園、小学校の先生方と意見交換をしたり、職員研修や、子どもたちの交流活動を企画するなど、前年度に引き続き多くの交流を図ることができた。</p> <p>校庭で遊ばせてもらったり、学校探検をさせていただいたり、学校を身近に感じ就学への意欲が高まった様子がみられた。</p> <p>子育て広場では、地域の親子さんと一緒に音遊び、リトミックを楽しむことができた。</p>

この評価のつけ方:

施設長・主任による各職員の聞き取りによる